

令和8年産 小麦技術情報No.4

令和8年4月28日
巻農業普及指導センター

～防除と追肥のポイント～

- 赤かび病発生防止に向け、3回防除を徹底しましょう。
- 製パン用強力粉の原料小麦としてタンパク質含率を高めるため、穂揃期の追肥は必ず実施しましょう。
- ※ 出穂状況を把握し、適期に防除と追肥を実施しましょう。

1 生育調査ほの生育状況と今後の気象予報

夏黄金（小麦）の管内の平均は、過去3年間の平均と比べて草丈107%、茎数は107%、葉色は+1.1となっていますが、ほ場により生育量に差が見られます。

小麦は出穂期を迎えていますので、赤かび防除の徹底とパン用小麦の穂揃期追肥を適期に実施してください。

【4月23日調査】

	品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	予想出穂期
新潟ひかりっこ(株)	夏黄金	63	273	39.8	4月28日
笠巻農産(株)	夏黄金	72	601	41.7	4月27日
(有)そら野ファーム	夏黄金	67	389	43.1	4月27日
(有)真木農産	ゆきはな六条 [※]	72 (稈長)	335	47.7	4月21日

※大麦の「ゆきはな六条」は参考値

◎向こう1か月の平均気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の見込みです。
(4月23日新潟地方気象台発表)

2 穂揃期追肥 【注意】薄力粉用の「ゆきはるか」と大麦は必要無し

【穂揃期追肥のめやす】

施用時期	出穂期3～10日後 (全有効茎の8割以上の穂が抽出した時期)
施用量	窒素成分4～6kg/10a

【穂揃期追肥の効果】

パン用小麦の品質評価基準のタンパク質含有率基準値(11.5～14.0%)を安定して満たすことで、食パンの膨らみが良好となり、柔らかく仕上がります。

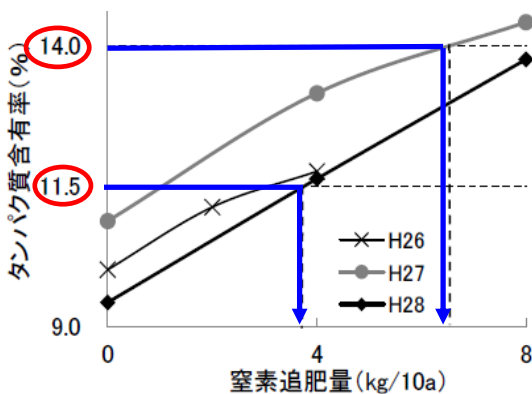


図1 穂揃期追肥量の違いによる子実タンパク質含有率の推移(ゆきちから、新潟作物研)



追肥量0kg/10a 追肥量4kg/10a 追肥量8kg/10a
比容積4.0ml/g 比容積4.3ml/g 比容積4.6ml/g

図2 穂揃期追肥量の違いによる食パン断面と比容積(ゆきちから、H28、新潟食品研)

比容積：パンの容積を生地重量で割った値。
数値が大きいほど軽く、ふわっとした触感になります。

3 赤かび病防除

- ・農産物検査基準では、赤かび粒の混入限度は0.0%を超えてはならないと定められています（4カルトンの中に1粒以下がめやす）。また、食品衛生法では、赤かび病のカビ毒（デオキシニバレノール）が基準値超過になると流通できず廃棄処分になります。
- ・令和5年度に赤かび病に罹病した小麦が流通し問題となりました。改めて防除の徹底とほ場での発生状況確認等、赤かび病の除去の徹底が求められています。
- ・適期防除の徹底により、赤かび病の発生を抑えましょう！

- 赤かび病は、開花期～乳熟期に感染し、減収と品質低下を引き起こします。出穂～乳熟期に雨が多く、気温が高い年に発生が多くなる傾向です。
1か月予報では、5月9～22日は平年に比べて気温が高くなる予報ですので、薬剤防除を徹底してください。
- 「ゆきちから」は赤かび病に弱い品種なので、3回の防除を徹底しましょう。
- 「夏黄金」「ゆきはるか」は赤かび病耐病性は中ですが、3回の防除を実施しましょう。

【赤かび病の防除のめやす】

	防除適期	《参考》大麦
1回目	開花期(出穂期の7～10日後頃)	(出穂期の4～7日後頃)
2回目	1回目の7～10日後	1回目の7～10日後
3回目	2回目の7～10日後	

※ 農薬の使用にあたっては、登録内容を確認して適正に使用して下さい。

赤かび病の病斑



《ほ場巡回による物理的対策》

- ・出穂後はほ場を随時見回り、変色穂の抜き取りを実施しましょう。
- ・赤かび病の発生が多い場合は、他ほ場と区別し、刈り分けを実施してください。

○赤かび病の判断に迷う場合は、普及センターに連絡してください。

【パン用小麦の赤かび病防除薬剤と窒素肥料の混合液散布】

- 小麦の開花期（出穂7～10日後）に窒素肥料溶液と赤かび病防除薬剤を混合し、葉面散布することで作業の省力化を図ることができます。
- 開花期の葉面散布は、穂揃期に粒状尿素肥料を散布する手法と同等の収量、容積重、タンパク質含有率及び灰分を確保できます。

《混合液の作り方》

- (1) 10アール当たり窒素成分4～6kg相当の尿素肥料を、使用する赤かび病防除用殺菌剤の登録範囲内の水量で溶かします。
- (2) 尿素肥料水溶液に、所定量の殺菌剤を加えて均一になるまで攪拌します。
- (3) 追肥4～6kgの尿素を赤かび防除の1回目と2回目の2回に分けて施用すると葉焼けを軽減できます。

- 【留意点】
- ・散布液の窒素濃度が高いほど止葉の葉焼けが進みますが、生育と収量に影響はありません（写真）。
 - ・赤かび病防除薬剤の注意事項を遵守するとともに、尿素溶液との混合に対する見解がない薬剤は使用を避けてください。



止葉の葉焼症状

水量150Lに窒素6kg(尿素約13kg)を溶かした溶液による症状